

図書にみる看護技術の構造化の現状

山下 暢子, 定廣和香子, 高井ゆかり

近藤 誓子, 大川美千代

群馬県立県民健康科学大学

目的：看護技術に関する図書における技術の分類方法に着目し、看護技術の構造化の現状を解明し、構造化の特徴と看護技術学を体系的に発展させるための課題を考察する。

方法：日本医書出版協会医学書検索を用い、「看護技術」、「援助技術」、「看護」、「技術」をキーワードとし、図書を検索した。次に、「看護技術」に関する図書を抽出した。最後に、抽出した図書の看護技術の分類の階層数、看護技術の分類方法を分析した。

結果：対象図書として43冊38種類を抽出した。対象図書には、看護技術の7つの構造が存在していた。それは、【1. 伝統的二分型】【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】などであった。

結論：看護技術学の体系的な発展に向けた課題は、看護技術を含む現象を理解するための因子探索レベルの研究への着手、看護技術に関する知識の整理と構造化である。

キーワード：看護技術, 看護技術学, 看護技術の構造

I. はじめに

看護技術学は、あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にあるクライアントへ提供される看護技術を対象として、そこに共通して存在する客観的法則性とその適用を探究する学問である。看護の質向上に向けて、クライアントへ安全・安楽な看護技術を一定して提供しつづけるためには、看護技術の客観的法則性とその適用に関する研究が必要不可欠である。また、このような研究成果を積み重ね、看護技術学として体系化し、発展させていく必要がある。

先行研究¹⁾は、その第1段階として、看護技術に関する図書に着目し、そこに記述された「看護技術」の概念規定を構成する要素とその内容を明らかにした。この成果は、「看護技術」という概念が、現在どのように規定されているのかを説明可能に

した。しかし、次のような限界も持っていた。

「看護技術」の概念規定を持つ図書は全体のわずか17.0%であった。そのため、図書に記述された概念規定のみに着目したこの成果は、様々な研究者による「看護技術」の捉え方を反映しておらず、現在「看護技術」がどのような構造を持つと捉えられているのかを十分に説明できなかった。

そこで本研究は、看護技術に関する図書における技術の分類方法に着目し、看護技術の構造化の現状を解明する。また、その結果を基に、構造化の特徴と看護技術学を体系的に発展させるための課題を考察する。本研究の成果は、看護技術学の体系的な発展に向けた基礎資料となる。また、看護技術学の発展は、学生へ提供される看護技術学教育の充実やクライアントへ提供される看護の質向上に貢献する。

II. 研究目的・目標

1. 研究目的

看護技術に関する図書における技術の分類方法に着目し、看護技術の構造化の現状を解明し、構造化の特徴と看護技術学を体系的に発展させるための課題を考察する。

2. 研究目標

- 1) 看護技術に関する図書における技術の分類方法に着目し、看護技術の構造化の現状を解明する。
- 2) 1) の結果に基づき、構造化の特徴と看護技術学を体系的に発展させるための課題を考察する。

III. 用語の概念規定

1. 看護技術 (nursing technique)

看護技術とは、看護職者がクライアントとの相互行為において、人間の特性や人間関係に存在する客観的法則性を適用し、看護の目標達成を目ざす行動である。

2. 看護技術に関する図書 (books on nursing techniques)

看護技術に関する図書とは、看護学各領域に共通する看護技術の目的・方法などを系統立てて概説した図書である。

IV. 研究方法

1. 対象図書の選択

第1に、日本医書出版協会医学書検索を用い、「看護技術」、「援助技術」および「看護」と「技術」をキーワードとして図書を検索した。検索の際、図書の発表年を限定せず、すべての年とした。それは、本研究の目的が、看護技術学の発展に向けた課題を検討するために「看護技術」の構造化の現状を解明することであり、そのためには、現

存する看護技術の構造を広く概観する必要があるためである。

第2に、検索した図書の題名を概観し、看護学各領域に共通する看護技術を概説していると思われる図書を抽出した。

第3に、抽出した図書のうち、看護技術の目的・方法などを系統立てて概説した図書を対象として選択した。

また、上述した方法では検索できなかったが、図書館での蔵書検索や閲覧、図書目録の概観などにより発見した看護技術の目的・方法などを系統立てて概説した図書を選択した。

さらに、本研究の第1の目標は、看護技術に関する図書における技術の分類方法に着目し看護技術の構造化の現状を解明することであるため、看護技術の一部のみを概説している図書を対象外とした。具体的には、一部の看護技術の科学的根拠を概説した図書、日常生活の支援技術や観察・検査・処置の技術のみを概説した図書などである。

加えて、本研究は看護基礎教育の一領域である看護技術学の体系的な発展を究極的な目標とするため、看護基礎教育のための図書のみを対象として選択した。

なお、改版された複数の図書を検索できた場合、その最新版を対象とした。

2. 分析方法

対象図書の目次に着目し、各図書における看護技術の分類方法を確認した。具体的には、各図書における目次が何層に分類されていたのかを「看護技術の分類の階層数」とした。また、目次の最も大きい項目を「看護技術の最上位の分類方法」とした。

次に、筆者らが作成した分析フォームを用いて、その内容を整理した。この分析フォームは、「発表年」「図書の目的」「看護技術の分類の階層数」「看護技術の最上位の分類方法」などからなる(表1)。

表1 分析フォーム

対 象 図 書 番 号				
書 名				
発 表 年				
目 的				
看 護 技 術 の 分 類 の 階 層 数	1 ・ 2 ・ ③ ・ 4 ・ 5 その他 ()			
看護技術の最上位 の 分 類 方 法	Ⅰ：日常生活の援助 Ⅱ：診療の補助			
上位の分類方法	Ⅰ：日常生活の援助		Ⅱ：診療の補助	
	Ⅰ-1：環境 Ⅰ-2：清潔 ：		Ⅱ-1：与薬 Ⅱ-2：吸引 ：	
中位の分類方法	Ⅰ-1：環境	Ⅰ-2：清潔	Ⅱ-1：与薬	Ⅱ-2：吸引
	1) 病床管理 2) ベッドメイキング ：	1) 入浴 2) 部分浴 ：	1) 経口与薬 2) 直腸内与薬 ：	1) 一時吸引法 2) 持続吸引法 ：

* 架空データの入力例を示す。

次に、対象図書の「最上位の看護技術の分類方法」を構造の類似性に基づき分類し、集合体を形成した。なお、1つの内容が分冊されている場合には、分冊された複数冊の「看護技術の最上位の分類方法」を合わせて1つの構造として分析した。また、形成された集合体に、共通する性質を見出し、命名した。

3. 本研究の信用性

共同研究者間の検討により、分類・命名の信用性を確保した。

V. 結 果

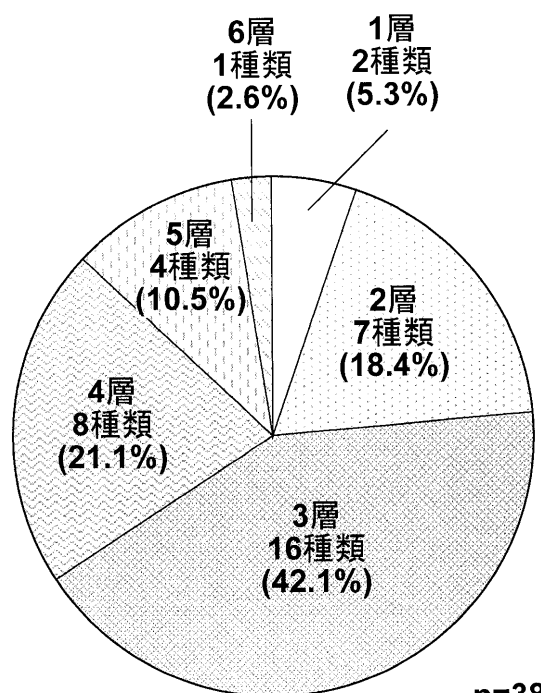
1. 対象図書の選定

対象図書として、看護技術に関する図書43冊を選択できた。その発表年は、1984年から2005年に渡っていた。また、対象図書のうち10冊は、2冊に分冊された5組であった。そこで、43冊からなる38種類を対象図書とした。

2. 看護技術の分類の階層数

対象図書38種類における「看護技術の分類の階層数」は、1層の図書2種類 (5.3%)、2層の図書7種類 (18.4%)、3層の図書16種類 (42.1%)、4層の図書8種類 (21.1%)、5層の図書4種類 (10.5%)、6層の図書1種類 (2.6%) であった (図1)。

層数」は、1層の図書2種類 (5.3%)、2層の図書7種類 (18.4%)、3層の図書16種類 (42.1%)、4層の図書8種類 (21.1%)、5層の図書4種類 (10.5%)、6層の図書1種類 (2.6%) であった (図1)。



n=38

図1 看護技術の分類の階層数

3. 看護技術の構造

対象図書38種類の「看護技術の最上位の分類方法」は、その類似性に基づき7集合体を形成した。

また、形成された集合体ごとに、共通する構造が存在した。すなわち、図書における看護技術の7つの構造が存在していた（表2）。

表2 対象図書における看護技術の構造

(n=38)

対象図書番号	最上位の看護技術の分類方法	図書の構造（種類数，％）		
1	「日常生活の援助技術」「診療の補助技術」	1-1. 日常生活の援助技術＋診療の補助技術		【1. 伝統的二分型】 (13, 34.2％)
2	「日常生活の援助のための技術」「診療の援助のための技術」			
3	「生活の援助に必要な基礎看護技術」「診療の援助に必要な技術」			
4	「アセスメント・検査援助技術」「生活行動援助技術」「診療・処置援助技術」	1-2-1. 情報収集の技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術	1-2. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術	
5	「基礎看護技術の基本」「日常生活に対する看護」「診療に伴う看護」	1-2-2. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術		
6	「基本技術」「日常生活の援助技術」「診療の補助技術」			
7	「看護場面に共通する技術」「日常生活援助技術」「診療・治療に伴う援助技術」			
8	「看護実践の基本」「生活の基本的看護ケア」「診療・検査の援助技術」			
9	「看護の基礎」「生活行動の援助」「治療に対する援助」			
10	「基礎看護技術の考え方とその活用」「基礎看護技術の知識・技術・応用（生活行動の援助技術・診療に伴う援助技術・実践のための基本技術）」			
11	「看護過程に共通する技術」「生活環境の調整と援助技術」「生理的ニーズの充足と援助技術」「検査と診療に伴う援助技術」			
12	「看護場面に共通する看護技術」「診断・治療に伴う看護技術」「生命を維持するための看護技術」「生活過程を整える看護技術」	1-2-3. 共通技術＋生命維持を支える技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術		
13	「看護行為に共通する援助技術」「健康的な日常生活を促進する援助技術」「生命活動を支える技術」「治療・処置に伴う技術」			
14	「看護場面に共通する技術」「生活行動に共通する技術」「診療・処置時の看護技術」「検査時の看護技術」「ME 機器使用時の看護技術」	2-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋医療機器の活用技術	【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】 (2, 5.3％)	
15	「看護の方法」「生活環境の調整と援助技術」「生理的ニーズの充足と援助技術」「心理・社会的ニーズへの援助」「診察と検査に伴う援助技術」「指導技術」「フィジカルアセスメント」	2-2. 共通技術＋情報収集の技術＋ニーズ充足のための援助技術＋診療に伴う技術＋指導技術		
16	「看護の基本」「日常生活の基本」「診療に関わる技術」「成人・老年看護学実習で必要な技術」	3-1-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋発達段階に応じた技術の応用方法	3-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋対象に応じた技術の応用方法	【3. 技術の応用・展開方法追加型】 (7, 18.4％)

対象 図書 番号	最上位の看護技術の分類方法	図書の構造（種類数，％）	
17	「看護行為に共通する技術」「健康的な日常生活行動を促進する技術」「生命活動を支える技術」「治療・処置に伴う技術」「特殊な状況下における援助技術（心肺蘇生法・止血・感染対策・危篤・終末期の技術）」	3-1-2. 共通技術＋生命維持の支援技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋健康レベルに応じた技術の応用方法	
18	「基礎看護技術概論」「基礎看護技術各論：基礎技術（良好な人間関係づくりに必要な技術・看護アセスメントの技術・看護計画・看護記録・退院計画・感染予防の技術・危篤時の看護と死者へのケア）・生活行動援助技術，診療に関連する技術」「事例学習」	3-1-3. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋技術の応用方法	
19	「看護行為に共通する技術」「日常生活に関する援助技術」「診療にともなう技術」「基礎看護技術を統合して行う看護行為」		
20	「看護過程の成立と共通基本技術」「よい生活環境をととのえる」「感染を予防する」「運動-休息のバランスをととのえる」「清潔への援助」「食と排泄のバランスをととのえる」「診断・治療過程と看護」「生命のおびやかしへの看護」「看護過程展開の技術」	3-2. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋看護過程の展開方法	
21	「看護技術を構成する7つの要素」「看護過程」「バイタルサインズの測定」「日常生活に必要な看護技術」「診療と治療を助ける看護技術」「（付録）救急時の看護の基本」	3-3-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋健康レベルに応じた技術の応用方法＋看護過程の展開方法	
22	「看護技術の基本」「生命並びに生活の過程を整える看護技術」「苦痛や不快を持つ患者への援助」「治療・検査を受ける患者への援助」「看護の基本的アプローチ（看護過程）」	3-3-2. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋症状に応じた技術の応用方法＋看護過程の展開方法	【4. 技術発展に向けた知識追加型】 (1, 2.6%) 【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完＋技術の応用・展開方法追加型】 (2, 5.3%)
23	「看護技術とはどのようなものか」「看護実践の場と共通看護技術」「生活援助」「診断治療に伴う看護」「看護実践と看護研究」	4-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋看護研究の方法	
24	「看護過程」「様々な看護活動に共通する看護技術」「日常生活活動の場を整える看護技術」「診療に伴う看護技術」「指導技術」	5-1. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋指導技術＋看護過程の展開方法	
25	「看護技術の概念」「看護技術の基本的要素」「日常生活の援助」「終末期の看護」「様々な健康レベルのある人への看護」「診療を受ける人への看護」「医療用機器の原理と看護」「看護過程の展開」	5-2. 共通技術＋日常生活の援助技術＋診療に伴う技術＋医療機器の活用技術＋健康レベルに応じた技術の応用方法＋看護過程の展開方法	

対象図書番号	最上位の看護技術の分類方法	図書の構造（種類数，％）	
26	「日常生活の援助」「診療時の補助技術」「指導技術・看護研究の基礎」	6-1. 日常生活の援助技術+診療に伴う技術+指導技術+看護研究の方法	【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】 (1, 2.6%)
27	分類なし	7-1. 技術の列挙	【7. 技術並列型】 (12, 31.6%)
28	分類なし		
29	分類なし		
30	分類なし		
31	分類なし		
32	分類なし		
33	分類なし		
34	「看護行為に共通する技術」「健康生活から見た日常生活への援助技術」	7-2. 共通技術+各技術	
35	「看護技術を実践するために必要な能力」「看護実践の基盤となる技術」「臨床の場で必要とされる技術」		
36	「基礎看護技術」「成人の看護技術」「母子の看護技術」	7-3. 各技術+技術の応用方法	
37	「看護活動の基本的技術」「看護活動の展開」		
38	「看護技術の基本」「看護を展開するための方法」「看護行為の基本」「健康障害のある人の生活への看護技術」	7-4. 共通技術+各技術+技術の応用方法	

7つの構造とは、【1. 伝統的二分型】【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】【7. 技術並列型】である。

以下、各構造ごとにその内容を論述する。

1) 【1. 伝統的二分型】(13種類, 34.2%)

【1. 伝統的二分型】は、看護技術を大きく「日常生活の援助技術」と「診療の補助技術」に二分する構造である。この構造は、38のうち13種類の対象図書に共通していた。

【1. 伝統的二分型】を持つ図書には、看護技術を純粋に「日常生活の援助技術」と「診療の補助技術」に二分する構造を持つ3種類が含まれていた。また、「日常生活の援助技術」と「診療の補助技術」とともに、これらの技術の提供時に共通して必要となるバイタルサインの測定やコミュニ

ケーション・ボディメカニクスなどの「共通技術」を合わせた10種類が含まれていた。

2) 【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】(2種類, 5.3%)

【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】は、【1. 伝統的二分型】に、近年の看護師の役割拡大に伴い新たに求められるようになった技術を補った構造である。この構造は、38のうち2種類の対象図書に共通していた。

【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】を持つ図書には、「医療機器の活用技術」を補った1種類と「指導技術」を補った1種類が含まれていた。

3) 【3. 技術の応用・展開方法追加型】(7種類, 18.4%)

【3. 技術の応用・展開方法追加型】は、【1. 伝統的二分型】に、その技術を状況に応じて応用する方法や看護過程を展開する方法を追加した構造である。この構造は、38のうち7種類の対象図書に共通していた。

【3. 技術の応用・展開方法追加型】を持つ図書には、【1. 伝統的二分型】に「対象に応じた技術の応用方法」を追加した4種類と「看護過程の展開方法」を追加した1種類が含まれていた。また、「対象に応じた技術の応用方法」と「看護過程の展開方法」を追加した2種類が含まれていた。

4) 【4. 技術発展に向けた知識追加型】(1種類, 2.6%)

【4. 技術発展に向けた知識追加型】は、【1. 伝統的二分型】に、その技術の今後の発展に必要となる看護研究の方法に関する知識を追加した構造である。この構造は、38のうち1種類の対象図書に存在していた。

5) 【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】(2種類, 5.3%)

【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】は、【1. 伝統的二分型】に、近年の看護師の役割拡大に伴い新たに求められるようになった技術を補うとともに、その技術を状況に応じて応用する方法や看護過程を展開する方法を追加した構造である。この構造は、38のうち2種類の対象図書に共通していた。

【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】には、「指導技術」を補うとともに「看護過程の展開方法」を追加した1種類が含まれていた。また、「医療機器の活用技術」を補うとともに「健康レベルに応じた技術の応用方法」「看護過程の展開方法」を追加した1種類が含まれていた。

6) 【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】(1種類, 2.6%)

【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】は、【1. 伝統的二分型】に近年の看護師の役割拡大に伴い新たに求められるようになった技術を補うとともに、その技術の今後の発展に必要となる看護研究の方法に関する知識を追加した構造である。この構造は、38のう

ち1種類の対象図書に存在していた。

7) 【7. 技術並列型】(12種類, 31.6%)

【7. 技術並列型】は、個々の看護技術を並びつらねた構造である。この構造は、38のうち12種類の対象図書に共通していた。

【7. 技術並列型】を持つ図書には、各技術を純粋に列挙した7種類の図書が含まれていた。また、個々の看護技術とともに、各技術の「共通技術」を追加した2種類と「各技術の応用方法」を追加した2種類が含まれていた。さらに、「共通技術」と「各技術の応用方法」を追加した1種類が含まれていた。

VI. 考 察

看護技術の分類の階層数を分析した結果は、看護技術の分類の階層が1層から6層に渡ることを明らかにした。また、3層に分類した図書が全体の42.1%を占めるものの、4層の図書21.1%、2層の図書18.4%、5層の図書10.5%と2層から5層までがすべて1割以上であることも明らかにした。これは、看護技術の分類には統一見解がなく、看護技術を構造化するための試行錯誤が行われている現状を示す。

看護技術の最上位の分類方法を分析した結果は、対象図書38種類には看護技術の7つの構造が存在することを明らかにした。7つの構造とは、

【1. 伝統的二分型】【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】【7. 技術並列型】である。

最初に着目した構造は【1. 伝統的二分型】である。これは、看護技術を大きく「日常生活の援助技術」と「診療の補助技術」に二分する構造である。また、この構造は、【7. 技術並列型】を除

くすべての構造の中核に位置づいていた。これは、看護技術を「日常生活の援助技術」と「診療の補助技術」に二分する構造が、看護技術の構造として重視されている現状を示す。

この構造は、保健師助産師看護師法第5条の看護師の『傷病者若しくはじょく婦に対する「療養上の世話」又は「診療の補助」を行うことを業とする者²⁾』という定義に影響を受けている可能性が高い。その理由は、次の通りである。

わが国の看護教育は、当初、アメリカの看護書より大きな影響を受けた³⁾。そのうちの1冊であり、保健師助産師看護師法が制定された1948年以前に初版された『The Principles and Practice of Nursing』⁴⁾ (邦題：看護の原理と実際)は、看護技術を「酸素とその他ガスの投与、および換気装置(人工呼吸器)の利用」「非経口与薬」などに分類しており、その構造として【1. 伝統的二分型】(以下【1.】)を持たない。一方、1948年以降に発表されたわが国の図書の多くは、その中核に【1.】を持つ。これらは、保健師助産師看護師法の看護師の定義が、この法律制定以降の看護技術の分類に影響を与えた可能性を示す。

保健師助産師看護師法の規定するこの看護師の定義は、約60年前の法律制定からこれまで一度も変更されてこなかった。しかし現実の世界では、少子高齢化の進展、医療技術の進歩、国民の意識の変化、看護教育水準の向上などへの対応に向けて新たな看護のあり方が検討されている⁵⁾。また、看護師の裁量の範囲、役割・業務を諸外国との医療制度等の違いを含めて考慮する必要性⁶⁾も指摘されている。これらは、時代の流れとともに看護師の役割や業務が複雑化し、それに伴って看護のあり方を再検討する必要性が生じている現状を示す。

これらは、約60年前のままである看護師の定義が、現在の看護師の役割や業務を十分には説明できなくなってきた可能性を示す。また、この看護

師の定義に影響を受けた【1.】が、「現実に提供されている看護技術を包含しきれない可能性」という限界を持つことを示す。

次に着目した構造は、【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】である。

このうち【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】(以下【2.】)は、【1.】に、近年の看護師の役割拡大に伴い新たに求められるようになった技術を補った構造である。

【2.】の補った技術は、「医療機器の活用技術」「指導技術」であった。これらは、医用工学を応用した医療機器の開発⁷⁾への対応、在宅療養を要する人々の増加⁸⁾に伴う、クライアント自身が問題を解決・回避していける関与の必要性という新たな看護師の役割遂行に不可欠である。また、【1.】に十分には包含されない技術である。

これらは、【2.】が【1.】の限界克服に向けて、時代の流れとともに必要となった技術を補った構造であることを示す。

【3. 技術の応用・展開方法追加型】(以下【3.】)は、【1.】に、その技術を状況に応じて応用する方法や看護過程を展開する方法を追加した構造である。

応用とは、学習を通して習得された原理を具体的な状況でそれ以前に経験したことのない新しい問題や場面において適切・有効に利用すること⁹⁾である。これは、「技術の応用方法」が看護技術の原理を対象個々の状況に応じて適切・有効に活用する方法であることを意味する。また、看護過程とは、人々の健康に関わる個別の問題を解決するために用いられる系統的な問題解決法¹⁰⁾である。これは、「看護過程の展開方法」が、看護技術の原理を対象個々の問題解決に活用する方法であるこ

とを意味する。これらは、【3.】の追加した「技術の応用方法」「看護過程の展開方法」が、対象個々の状況や問題に応じた方法であることを示す。

わが国の平均寿命は年々延長し、人々の体験や人生観は多様化している。また、人々を取り巻く膨大な情報は、個々の価値観に影響している。このような生活の変化に伴って、看護に対する人々のニーズは多様化している¹¹⁾。【3.】の追加した内容は、対象個々の状況や問題に応じた方法であり、生活の変化に伴って多様化するニーズに応じて看護技術を個別化するために不可欠である。また、【1.】に十分には包含されない内容である。

これらは、【3.】が【1.】の限界克服に向けて、生活の変化に伴い多様化した対象のニーズに応じて看護技術を個別化するために必要となった方法を追加した構造であることを示す。

【4. 技術発展に向けた知識追加型】（以下【4.】）は、【1.】に、その技術を科学的に発展させる看護研究の方法を追加した構造である。

1990年代の終わりごろから、看護界にEvidence-Based Nursing（科学的根拠に基づいた看護実践）を目ざそうとする動きが起こった¹²⁾。これに伴い、経験的知識により支えられてきた技術を研究成果を用いて裏づけようとする試みがなされている¹³⁾。このような、Evidence-Based Nursingを目ざす活動には、研究により産出されたEvidenceすなわち科学的根拠が必要である。【4.】の追加した内容は、技術の今後の発展に必要な看護研究の方法に関する知識であり、このEvidence-Based Nursingを目ざす活動に不可欠である。また、【1.】に十分には包含されない内容である。

これらは、【4.】が【1.】の限界克服に向けて、Evidence-Based Nursingを目ざす活動のために必要となる方法に関する知識を追加した構造であることを示す。

以上は、【2.】【3.】【4.】が、【1.】の限界克服に向けた構造であることを示す。

残る2つの構造は【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】、【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】である。このうち【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】（以下【5.】）は、【2.】と【3.】の内容を合わせ持つ。また、【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】（以下【6.】）は、【2.】と【4.】の内容を合わせ持つ。これらはどちらも、上記の【2.】【3.】【4.】の内容を組み合わせた構造である。これは、【5.】【6.】も【2.】【3.】【4.】と同様に【1.】の限界克服に向かっており、これらの内容を組み合わせた複雑な構造であることを示す。

以上、【2.】【3.】【4.】【5.】【6.】はすべて、【1.】の限界克服に向けて、時代の流れに伴い必要となった新たな技術や方法を補完・追加していた。これは、【1.】の限界を乗り越えるために、実にさまざまな試みがなされている現状を示す。

しかし、新たな技術や方法の補完・追加の中核には依然として【1.】が位置づいており、【1.】の「現実提供されている看護技術を包含しきれない可能性」という限界は変わることなく存在する。【1.】を検討することなく、これに新たな技術や方法の補完・追加していくという試みは、時代の流れに対応する一方で、【1.】の限界を本質的には解決してはいない。

【1.】の「現実提供されている看護技術を包含しきれない可能性」という限界の解決に向けては、まず、現実提供されている看護技術を解明する必要がある。そのためには、実際に看護師がクライアントに看護を提供している場面を観察し、その場面にどのような看護技術が含まれていたのかを質的帰納的に分析する因子探索レベルの研究が必要となる。それは、因子探索レベルの研究が、従来から存在する状況を新しく見直し

たいときに有効である¹⁴⁾ことに起因する。

看護学は他の学問とは異なる独自の学問体系であり、看護学教育の発展には、看護に関する現象を独自の概念を用いて理解することが不可欠である¹⁵⁾。これは、看護技術に関する看護学独自の概念の必要性を示す。また、このような概念を導く、質的帰納的な因子探索レベルの研究が、看護技術学の発展に貢献する可能性を示す。

以上は、看護技術学の体系的発展に向けて、実際に看護師がクライアントに看護を提供している場面を観察し、その場面にどのような看護技術が含まれていたのかを質的帰納的に分析する因子探索レベルの研究の必要性を示す。

最後に着目した構造は、【7. 技術並列型】である。これは、個々の看護技術を並びつらねた構造である。

この構造は、著者の捉える各看護技術間の関係にあえて言及することなく、技術を分かりやすく概説しようとする著者の意図を反映している可能性が高い。

一方、看護技術を概説する意図ではなく、学問の体系的な発展を意図し研究しようとする時には、看護技術を系統的に考えた構造が不可欠である¹⁶⁾。系統的な構造に沿った教育は、学生が看護技術の基礎から応用へと学習を積み重ねていくことを支援する。また、このことを通して、複雑化する看護の役割や業務へ対応するために応用できる基盤の修得に貢献する。

以上は、看護技術学の体系的発展に向けて、看護技術に関する知識を整理し、構造化する必要性を示す。

VII. 結 論

1. 看護技術の分類の階層数は、1層から6層まで存在していた。また、看護技術を3層に分類した図書が42.1%を占めるものの、2層から5層まではすべて1割以上であり、看護技術の分

類には統一見解がなく、看護技術を構造化するための試行錯誤がなされている。

2. 対象図書38種類には、看護技術の7つの構造が存在していた。7つの構造とは、【1. 伝統的二分型】【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】【7. 技術並列型】である。

3. 【1. 伝統的二分型】は看護技術の構造として重視されており、「現実提供されている看護技術を包含しきれない可能性」という限界を持つ。

4. 【2. 看護の役割拡大に伴う技術補完型】【3. 技術の応用・展開方法追加型】【4. 技術発展に向けた知識追加型】【5. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術の応用・展開方法追加型】【6. 看護の役割拡大に伴う技術補完+技術発展に向けた知識追加型】はすべて、【1.】の限界克服に向けて、時代の流れに伴い必要となった新たな技術や方法を補完・追加している。

5. 看護技術学の体系的発展に向けて、実際に看護師がクライアントに看護を提供している場面を観察し、その場面にどのような看護技術が含まれていたのかを質的帰納的に分析する因子探索レベルの研究が必要である。

6. 【7. 技術並列型】は、著者の捉える各看護技術間の関係にあえて言及することなく、技術を分かりやすく概説しようとする著者の意図を反映している可能性が高い。看護技術学の体系的発展に向けては、看護技術に関する知識を整理し、構造化する必要がある。

引用文献

- 1) 山下暢子, 定廣和香子, 金谷悦子ほか(2006): わが国の看護技術に関する図書の現状—「看護技術」の概念規定に焦点を当てて—, 群馬県立県民健康科学大学紀要, 1, 73-85
- 2) 看護行政研究会 (2007): 平成19年度看護六法, 3, 新日本法規, 東京
- 3) 氏家幸子 (2004): 看護基礎論, (1), 136, 医学書院, 東京
- 4) Verginia Henderson, Gladys Nite (1981): 看護の原理と実際, メヂカルフレンド社, 東京
- 5) 新たな看護のあり方に関する検討会(2003): 新たな看護のあり方に関する検討会報告書
- 6) 前掲書 5)
- 7) 前掲書 3), 48
- 8) 岩井郁子 (1994): 系統看護学講座専門 3 基礎看護学, 59, 医学書院, 東京
- 9) 東 洋他編(1988): 現代教育評価事典, (1), 43-33, 金子書房,
- 10) 武田祐子 (2006): 「看護過程」の項, 見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子 (編), 看護学事典, (1), 124, 日本看護協会出版会, 東京
- 11) 前掲書 5)
- 12) 深井喜代子(2006): 科学的看護の推進, 深井喜代子, 前田ひとみ (編) 基礎看護学テキスト, EBN 志向の看護実践, (1), 9, 南江堂, 東京
- 13) 前掲書12), 9
- 14) Donna Diers. (1979): Research in Nursing Practice, (1) 100, Lippincott Company, Philadelphia
- 15) 舟島なをみ, 安齋由貴子, 中谷啓子(1994): 過去 5 年間の看護学教育研究の動向と今後の課題, 看護教育, 35 (5), 395
- 16) 氏家幸子 (1990): 看護技術の構造と研究方法の思索, 日本看護科学学会会誌, 10 (1), 4

Trends in the Classification of Nursing Techniques in Books

Nobuko Yamashita, Wakako Sadahiro, Yukari Takai,

Seiko Kondo, Michiyo Okawa

Gunma Prefectural College of Health Sciences

Objectives : The purpose of this research was 1) to clarify trends in the structure of nursing techniques, focusing on the classification of nursing techniques in books dedicated to this subject ; and 2) to discuss the characteristics of the structure of nursing techniques and the issues relevant to systematically developing the science of nursing techniques.

Methods : Relevant books were identified by searching the electronic database of the Japan Medical Publishers Association using the following key words : “nursing techniques”, “care techniques”, “nursing”, and “techniques”. Books on nursing techniques were selected. The number of classifications of nursing techniques in these books and the types of nursing techniques within these classifications were analysed.

Results : Forty-three books (38 types of book) were selected for analysis. Seven structures of nursing techniques were identified. These included : “1. Conventional/essential techniques,” “2. Complementary techniques to respond to the expanded role of nursing,” “3. Additional methods of applying/providing techniques,” and “4. Additional knowledge about research to develop nursing techniques”.

Conclusion : The results suggested that to systematically develop the science of nursing techniques, factor-searching research is required to describe phenomena related to nursing techniques. The ultimate aim of this research is to systematize the knowledge about nursing techniques and develop a better structure for classifying these techniques.

Key words : nursing techniques, science of nursing techniques, structure of nursing techniques